

公益財団法人 日本骨髄バンク 第104回 業務執行会議 議事録

開催方法:WEB 会議形式で開催

(本会議を WEB 開催することに関して全理事の同意を得た)

日 時:2025 年(令和7年)7月18日(金)17:10~17:25

出 席:日野 雅之(副理事長)、佐藤 敏信(副理事長)、浅野 史郎(業務執行理事)、
石丸 文彦(理事)、大西 達人(理事)、鈴木 利治(理事)、橋本 明子(理事)、
福田 隆浩(理事)、沓沢 一晃(監事)

欠 席:岡本 真一郎(理事長)、瀬戸 愛花(理事)、高橋 聡(理事)、

陪 席:細川 亜希子(厚生労働省健康・生活衛生局難病対策課移植医療対策推進室室長補佐)
高波 直樹(厚生労働省健康・生活衛生局難病対策課移植医療対策推進室係長)
東 史啓(日本赤十字社血液事業本部技術部造血幹細胞事業管理課課長)

事 務 局:小川 みどり(事務局長兼ドナーコーディネート部長兼医療情報部長)
田中 正太郎(総務部長)、関 由夏(移植調整部長)、水口 詞代(広報渉外部長)、
荒井 茂(総務部TL)

(順不同、敬称略)

1 開会

2 業務執行会議の成立の可否

業務執行会議運営規則第6条により、本業務執行会議が成立した。

3 議長選出

業務執行会議運営規則第5条により、業務執行会議の議長は理事長があたるとされているが、理事長欠席のため、日野副理事長が議長に選出された。

4 議事録署名人の選出

議事録を作成するための議事録署名人は、業務執行会議運営規則第8条により、議長及び出席した構成員が記名押印する。日野副理事長、佐藤副理事長、浅野業務執行理事がこれにあたりとされた。

[議 事]

1 報告事項(敬称略)

(1)寄付金報告 … 水口広報渉外部長

令和7年6月度は899件、436万円の寄付をいただいた。2020年以来、6月として金額は最低であったが件数としては最高。ACジャパンの放映等含め、7月以降の回復を見込んでいる。

(2)採案件数・患者登録数報告 … 田中総務部長

令和7年6月の採案件数は国内BM54件、国内PB27件、国際1件、合計82件。本年度3か月経過したが、昨年度より微減の状況。国内の患者登録者数は160名で、前年度より若干増加。

(3)調整医師新規申請・承認の報告 … 関移植調整部長

令和7年6月は、新規申請19名、異動・辞退8名、現在数 1,269 名。

(4)AC ジャパン支援キャンペーン開始 … 水口広報渉外部長

7月1日より 2025 年度 AC ジャパン支援キャンペーンの放映が開始となった。

＜30秒バージョンの CM を視聴＞

ナレーションは音楽・タレント活動で活躍中の あのさん、イラストキービジュアルは若手女性イラストレーターの NAKAKI PANTZ さんをお願いをしている。

(5)骨髄バンクニュース66号発行 … 水口広報渉外部長

骨髄バンクニュース66号を 2025 年7月1日に発行。紙版と Web 版を作っており、紙版は寄付者に郵送、Web 版はドナー登録者にショートメッセージで URL を送るという形で展開。

ヒーローズライフと題し、血液疾患患者で写真家の幡野広志さんに、ドナー登録者の素顔を切り取ってもらうという企画で、献血を 140 回以上実施されている中村さんに登場いただいた。

その他、2日でドナー休暇制度を導入した会社の高岡さんからのコメント紹介、プロジェクトレンジの活動報告、ちょこっと座談会の中でドナー登録者数累計 100 万人達成について紹介している。

こちらの内容については、ホームページや SNS 等で発信を強化していき、LINE でもリマインドをしてリテンションにつなげていく。

(6)地区事務局統合推進状況 … 小川事務局長

地区事務局の統合スケジュールについて、9月1日に中四国事務局が最初に大阪に移転する。最終は3月9日に九州事務局が大阪に移転。これにより、3月9日をもって東日本地区事務局と西日本地区事務局の2拠点体制となる。

統合に向けて作業中で、地区ごとに細かな運用面で異なっている部分の統一化、システム改修、帳票の見直しなどを行っているところ。

(7)コーディネート上でのドナーへの説明について … 小川事務局長

コーディネート上、確認検査面談と最終同意面談の2つの面談がある。現行はコーディネーターがハンドブックを用い、ドナーや家族に口頭で説明を行っている。今後、ドナーや家族向けの説明動画等を作成し、これを事前に視聴、面談では、重要項目の振り返りをするようにしたい。こうすることで、ドナーや家族は、事前の動画視聴で十分に理解した上で面談に進むことができ、またコーディネーターは必要事項の確認と質問応対に注力することができる。同時に面談時間の短縮が図られ、ドナーの利便性向上、最終的に応諾率の向上につなげたい。

動画の完成は秋以降で、リモート・対面を問わずこの方法で面談を実施したい。具体的には、例えば最終同意面談の場合、ドナーが選定され、採取日程の調整と並行して、ドナーと家族は説明動画を事前に視聴する。ドナーが視聴し、理解したことを、例えば視聴完了メールを事務局が受け取れる等何らかの方法で確認。最終同意面談当日、動画の振り返りとして、副作用や後遺症といったリスク・採取前後のスケジュール・同意後撤回による患者への影響、この3つのポイントを中心に振り返る。質疑応答と各種確認にフォーカスし、現行は1時間半から2時間かかるものを、1時間で終了できるようにしたい。

NMDP の例だが、選定後 Web 上の資料を案内し、読むとチェックが付くような仕組みになっている。このような短い動画を作り、ドナー等が隙間時間にスマホで見られることを理想形に、考えている。

(主な意見)

<日野> ドナーや家族がきちんと視聴しているかをどのように確認するかが、一番肝になるかと思う。最近e-ランニングが結構あるが、実際には見ていないということもあるので、この辺の仕組みをきちんと作っていくのが大切である。

以上